

今日の朝の運動場は、低学年を中心におにごっこが行われていた。はじまりは、たいていの子は、遠くまで走っていく。しかししばらくするとおにに近づいてくる。つかまりたくないから逃げまくりたいけど、遠くに逃げても実は楽しくない。つかまるかつかまらないかの瀬戸際のスリルがおにごっこの醍醐味▼「ヒトはもともと子どもの時にはおにごっこを行う動物である」という説もあるらしく、逃げる・捕まえるという単純なおにごっこがもとになり、様々なバリエーションがある。「ゆとり」がある集団では自然に生じると考えられているそうだ▼子どもたちにとって「ゆとり」とは、何にも拘束されない三間（時間・空間・仲間）がそろっている状態である。登校してから朝の活動が始まるまでの時間は、この「ゆとり」の状態であるが、「学習用具をランドセルから引き出しに移す」「連絡帳を書く」「提出物を出す」という時間でもある。高学年になると委員会の仕事や色別班の仕事もこなす▼きっちりしないで緩みを持たせないことを「あそびがない」という。学校生活の中にも「あそび」は必要▼「あそび」の中で「遊ぶ」子どもたちを見ながら、こんな時間がもう少しあるといいなと思った。5時間目、職場体験に来てくれている中学校のミニ先生2人が1・2年生の子とあそんでくれた。最初の遊びは、もちろん「おにごっこ」だった。